縄文海進から見る戸畑の姿

明治学園高校
児玉美琴　尾藤沙紀

【背景】
縄文海進の影響を受けた地域とそうでない地域での土地活用の仕方の差異に興味を持った。

【仮説】
縄文海進の影響の有無によって、現在の土地活用の仕方に違いがある。

影響あり…地盤が弱い。高い建物は存在しない。
影響なし…地盤が強い。
　　生活の上で重要な建物が存在する

【方法】
縄文時代の戸畑区の地図を作成し、現在の地図と重ね合わせて比較を行う。
今回は主に地名と北九州地史を参考に作成した。

【結果】
①天籟寺川周辺でのフィールドワーク
縄文海進の痕跡が残っているのではないかと考え、天籟寺川周辺でフィールドワークを行った。
⇒護岸工事が行われており、痕跡を発見することはできなかった。

②北九州地史を参考にした地図の作成

出典：https://www.gsi.go.jp

北九州地史の中にある10,000年前の戸畑の予想地図を、現在の戸畑の地図と重ね合わせて地図を作成した。

③地名を参考にした地図の作成

出典：https://www.gsi.go.jp

〈正津町〉
命名は昭和10年。
かつて、天籟寺から菅原までは広い入江となっており、風よけのための船着き場が存在した。
その船着き場の正面にあったことから「正津」という名前が付けられた。
〈沖台〉
天籟寺川付近はかつて入海になっていたが、川からの土砂の堆積で台地状の洲ができた。
そのことから「沖台」と名付けられた。

地名は伝承に基づいてつけられることもあり、歴史的に正確ではない場合もある。
しかし、地図③が先行研究を参考にした地図②と同じようになったことから、地図③の信憑性は高いと考えられる。
更に、私たちは、戸畑地区の古代の遺跡である千防遺跡に着目した。
千防遺跡からは製塩土器が多数出土しており、塩を作るための作業場として使われていたことが知られている。
現在正津町がある場所が入江になっていたとすると、千防遺跡は岬の突端に位置した遺跡であったと考えることができる。
この立地は製塩に必要な海水と木材を手に入れるのに最適なものであった。
正津町のある場所が入江であったことは、地理的な特徴を鑑みても理に適っているといえる。

よって…

＜縄文海進の影響を受けた土地＞
　正津町をはじめとする天籟寺川周辺の土地
＜縄文海進の影響を受けていない土地＞
　台地の上や金比羅山など

【考察】
正津町をはじめとする天籟寺川周辺の土地には住宅街が広がっているのに対し、そのすぐ近くの台地の上には高層マンションや市役所などが立ち並んでいる。このことから、縄文海進の影響を受けた地は高い建物や重要な行政機関を建てるには不向きな土地であると推測できる。現在、高い建物を建設する際には、強固な地盤がある地層まで基礎部分を打ち込まなければならないと定められている。そのことから考えると、縄文海進の影響を受けた土地には高い建物を支えるだけの強固な地盤が存在しない可能性がある。縄文海進は、その土地に対して何らかの影響を与えるものだと考えられる。

【展望】
・現在の戸畑と縄文時代に海進の影響を受けた土地の比較をより詳しく行い、縄文海進が土地に与えた影響を更に詳しく調べる。
・将来起こる海面上昇に備えて、戸畑区で行うべき対策の基本計画を策定する。

【参照】
・北九州市文化財調査報告書第115集
・福岡縣史資料　続第4輯　地誌編
・角川日本地名大辞典
・戸畑市史

また、北九州市立いのちのたび博物館の宮元香織さまのご協力もいただきました。